

第5回小牧市水道事業経営懇話会 議事録

1 日時

令和元年12月24日（火）午後2時から午後3時30分まで

2 場所

小牧市役所 本庁舎3階 301会議室

3 出席委員（敬称略）

萩原 聡央 名古屋経済大学 法学部 教授

平山 修久 名古屋大学 減災連携研究センター 准教授

北出 恵子 ひまわり消費研究会 会長

酒井 美代子 小牧市女性の会 会長

佐橋 均 小牧市区長会 副会長（村中区長）

廣野 友巳 小牧商工会議所 常議員（デリカ食品工業株式会社 代表取締役）

4 事務局

牧野 治 上下水道部長

梶田達人 上下水道部次長

伊藤裕介 上下水道経営課長

高木康昌 上下水道業務課長

丹羽昌利 上下水道施設課長

早稲田宏 上下水道施設課長補佐

石田哲也 上下水道経営課経営係長

北 賢司 上下水道経営課水道経理係長

箕浦光高 上下水道経営課経営係主事

5 傍聴者

なし

【事務局 梶田次長】

それでは、ただ今から第5回小牧市水道事業経営懇話会を開催いたします。本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。全体の進行役を務めさせていただきます、上下水道部次長の梶田でございます。よろしく願いいたします。

今会議は公開となっております。傍聴の方はいらっしゃいません。では、初めに資料の確認をさせていただきます。資料につきましては事前に郵送させていただいております。

まず、第5回の次第、それから、資料1の第4回懇話会における意見及び意見等に対する考え方、資料2の小牧市水道事業ビジョン・経営戦略（案）、それから、資料3でその概要版でございます。不足等ございましたら事務局のほうに用意があります。よろしいでしょうか。あと会議中、記録用として録音および写真撮影をさせていただきますので、ご了解くださいますようお願いいたします。

それでは開会にあたり、上下水道部長の牧野よりごあいさつ申し上げます。

【事務局 牧野部長】

改めまして皆さんこんにちは。本日は年末のお忙しい中、第5回の経営懇話会にご出席賜りまして誠にありがとうございます。さて、本日は今まで検討をいただきました計画につきまして、後ほど説明をさせていただきますが、いよいよ来月の1月15日からパブリックコメントを予定しています。市民の皆さまから意見をいただきたいと予定しております。本日は、懇話会およびパブリックコメントの前に最終的に皆さんのご意見をお伺いしたいなと思っております。委員の皆さまにおかれましては、様々な視点から活発なご議論をお願いしまして、簡単ではございますが、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしくようお願いいたします。

【事務局 梶田次長】

ここで第4回会議録の公開について報告させていただきます。第4回の会議録につきましては、委員の皆さまにご確認いただき、修正等を加え、市のホームページで公開しております。それでは、以降の進行につきまして、萩原座長にお願いしたいと思います。よろしくようお願いいたします。

【萩原座長】

改めまして皆さまこんにちは。ただ今、牧野部長のごあいさつにもありましたけれども、本日はパブリックコメントの前にもう一度全体を通してご意見をいただきたいと思っております。限られた時間の中で活発な議論を通じて実りのある会議になりますよう、皆さま方のご協力をお願いいたします。

それでは、掛けて進行させていただきます。次第に沿って進めてまいります。

次第2、前回の意見及び意見等に対する考え方について、事務局の説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

（前回の意見及び意見等に関する考え方について説明）

【萩原座長】

ありがとうございました。事務局の説明が終わりましたので、ただ今の説明につきましてご意見、ご質問などございましたらお尋ねいただければと思いますがいかがでしょうか。

【廣野委員】

ちょっとすみません。10月でしたか、職員の人材育成、懇話会の第4回の。職員の人材育成・能力開発について取り組みを追記しますということで52ページだったですね。内・外の人材育成・能力開発に人員を確保するということですが、20ページの人材の確保と技術の継承で表が書いてありまして、2018年度ということで26名から16人に技術職員が減ってきているというところでは、教育と人員確保というのは概ね10人減ったんだけど、事務職員さんは3名なんですけども、再任用職員さんというのがこの技術職員に充当されるという判断でよろしかったですか。トータル的には、具体的には今の状態から先を見越した場合に、最終的には2047年ぐらいには何人必要なんですかねという、その必要な人員を確保するというのでこの20ページの数字はこうなんですけども、2009年の45名、これだけは維持管理で最低要りますよという数字を少しお示し願いたいなど。

【事務局 伊藤課長】

結論から申しますと、現状維持が最大限かなと考えております。先行き、水道事業につきましても収益が下がっていく、経営が厳しくなっていく。市の本体も税収が下がってきて厳しい状況になってくるという中で、職員を増やすことはなかなか厳しい状況ですので、何とかして現状を維持していきたいなどは思っております。

【廣野委員】

ということは、今の現状の維持によって賄えるということですか。基本的にメンテナンスも含めて、量の多少にかかわらずメンテナンスは一定の労力が必要だと思うんですよね。その維持管理に対して、減ってくるというのも、果たして、使うのが減ってくるから人も減らせばいいということはないなというそのへんのところを、人は減るんだけど維持管理費はずっとかかりますよという形のことで、ちょっとこの20ページと52ページの関連をされるとパブリックコメントでも出てくるんじゃないかなと思いましたがね。以上です。

【事務局 牧野部長】

まず37ページを見ていただきたいと思います。37ページの下段のほうに、(2)支出の部 ②人件費という赤書きの欄があると思うんですが、それは今回の財政計画上については現状の人員を想定した中でシミュレーションをしているというのがまず前提になります。それと、実際にどれぐらいの人が今後また要るかということは、これはいろんな要素があります。当然、人がいればいるほどいろんな面で有利なことが事実ですが、経営面から言

えば、民間委託や包括委託、広域化、共同化とか、いろんなテーマがありますので、そういう中で必要な人員を確保していくという。もちろん、今、危機管理面も非常に大きな要素になっています。応急給水もしっかりやっついていかないとはいけませんので、そういうことも含めた中で、適正な人材を確保していくというご返答にさせていただいて、実際にそれは本当にこれからそういうことを考えながらやっついていくことは当然必要ですが、今、ここに具体的に何人要るといことは書けませんので、シミュレーション上は現状の人数でやらせていただいております。

【廣野委員】

わかりました。

【萩原座長】

人件費のところ、同数の職員数、これは人件費という題目で挙げられていますが、この20ページのところは人材の確保ということで、この組織体制、人員数というのはこちらにも明記していいのかなと思ったんですが書けないということですよ。

【事務局 牧野部長】

はい。

【萩原座長】

わかりました。ありがとうございます。そのほかに何かご意見ございますか。

【平山委員】

いいですか。少し言葉を検討していただきたいのが2点あって、一つは、32ページの内部留保資金に関連してですが、今回は本当に、前回、私もいろいろ意見を言ったんですがすごく丁寧に対応をしてくださって、ざっと読むと本当に非常にわかりやすい資料になってきていると思っています。その中でも最後の20億円をできれば、目標金額を20億円以上と設定するというように、目標というのを少し付けておいたほうが良いと思いました。

2点目は、35ページですが、これも用語だと思いますが、ここも非常に丁寧に対応していただいていると思うんですが、二つ目の赤のところなんです、この重要管路、耐震化管路の更新費用と書いてあるんですが、これは重要管路の更新あるいは耐震化の費用ということで、耐震化管路の更新なのかどうなのかというのを整理しておいたほうが良いのかな。要は、重要管路を更新あるいは耐震化するための費用が最初含まれていて、それは口径が大きいのでお金もかかるんですということなので、この耐震化というのはここではなくて後ろの更新あるいは耐震化費用のほうに入れたほうが良いと感じました。これは用語的なものになります。

あと、これは懇話会なので少し議論になるかもしれませんが、51 ページ、シミュレーション結果のところになるんですが、これは市民にとって現状維持をというのはもちろんそうなんですが、できれば、料金値上げということなので、やはり市民とすると少なくとも何らかの形でサービスのレベルの向上みたいなものを目指すんだといったところはどこかであっていいのかなと。現状維持だけでなく、例えば、いろんな事務作業が早くなりますであるとか、料金の支払い方がいろいろ便利になりますとかというすごく細かいところから、もちろん災害時にもきちんと水を届けるというように、それもサービスのレベルの向上だと思いますので、そういった、あまりにも現状維持、現状維持ではなくて、何らかの形でサービスのレベルの向上、もちろんそのために今後必要な ICT とか、いろんな業務の効率化であるとか、そういったものもしっかりと考えていきますと、そういうところを見せたほうがいいのかなどは思いました。これは特に市民の、委員の方の意見を、現状維持で料金値上げよりも何らかしでもいいので、サービスのレベルが上がっていますよというのをぜひシミュレーション、もちろん今後の詳細検討の中でそれはしっかりと示していくことが必要かもしれませんが、この段階で何らかのそういった心意気はどこかにあってもいいのかなと思いました。

あとは、これも本当に感想程度で聞いていただければいいんですが、まず一つは、やはり 56 から 60 歳の技術職員が 8 名いて、この方々があと 10 年以内にはリタイヤするというこの問題をどう乗り越えるのかといったことはすごく大きなことで、そこをどのように考えていくのかは考えないといけないとは思っています。

一方で、これは本当に個人的なぼやきなんですけど、行政改革という名の下で、本当に間違った行政改革をいま日本ってすごく行ってきてしまっている。要は、行政改革イコール人減らし。本当は業務改革があって業務の量が減る、あるいは業務が効率化されるので人を減らしましょうという順番なんですけど、先に人を減らしましょうとなってしまう。それが、人を減らしたら行政改革がうまくできましたよというのはものすごく間違ったミスリーディングで、本当に国の底力をなくしてしまっているんじゃないのかなと思っています。なので、人件費あるいは人を減らす、要は結果として人を減らすことができた、それはきちんと業務改革ができた、であるとか業務量を減らすことができた、あるいは業務量が減っても同じように維持管理できるようなシステムができましたよ、なので、人はこういう形で確保していけば十分なんですというところが本来の形なんですけど、今は人減らしでお金が減った、万歳、よかったよかった、行政改革がうまくいきましたというのは何か違うような気はするので、だから、そういったことも踏まえて、もちろん廣野委員の指摘された何人確保しますというのをはっきり言えたらいいかもしれませんが、それを言おうとすると自分たちの業務量をちゃんと洗い出さないと、これだけの業務量があるのでこれだけの人数が必要なんですというのが本来のやり方、あるいはロジックのかなと思っていますが、そこは非常に難しいので大変なんですけど、そういったことも背景にはあるんだといったことは共通の理解としては持っておくことが必要なかもしれないと思

いました。以上です。

【萩原座長】

ありがとうございます。平山委員から、大きく四つのご指摘がありました。事務局から一つずつご説明、ご意見等あればありがたいです。初めに32ページのところです。32ページのところのこの目標、20億を目標金額という形で入れることについてはどうですか。

【事務局 伊藤課長】

あくまでも目標なので、20億円を下回るところも一部ありますので、やはり目標値ということで入れさせていただきたいと思います。

【萩原座長】

そのように修正いただくということによろしいですね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【萩原座長】

35ページのところの、この重要管路の更新や耐震化ではないかというこちらのご指摘に関しましてはどうでしょう。

【事務局 伊藤課長】

文言の整理をさせていただきます。

【萩原座長】

では、そのように修正してください。

あと、51ページのところのも、これも一番最後の行革とも関連してくるかもしれませんが、料金値上げに、当然市民は納得してもらわなければいけないわけで、その上ではこの料金値上げにともなってサービスレベルの現状維持というより、むしろサービス向上が図られるということに触れたらどうかという点ですが、この点についてはどうでしょうか。

【事務局 伊藤課長】

具体的に何をやりますというのはまだ書ける状況ではないとは思いますが、サービスの向上は取り組んでいかなければならないと考えておりますので、どこかにそのような表記をさせていただきたいと思っております。

【萩原座長】

事務の効率化が図られるというのもあるのかもしれませんが、これを実際行っていく中で水道管の新しい布設とか、更新、耐震化があることによって、災害時においても安全な水を供給できると、先ほども平山委員の意見にもあったと思いますのでご検討いただければと思います。

最後、これは難しいですね。行政改革そのものについての、確かに目的はどうしても効率化、そして経費節減という、このまず目標ありきとかになっているんじゃないかなと。それはどの自治体も同じようなところがあるんでしょうけど、小牧市として水道管布設に関し、さらにこの水道事業の今後のあり方に関して、やはり人員というものはどうしても欠くことはできないと思うので、その点どのように考えていかれるのか。

【事務局 牧野部長】

それでは、私のほうから。先回もそういった観点で一部お話をさせていただいたんですが、前は私の意見みたいな話だったんですが、今現在、小牧市としては技術職員というのが大体七十数名います。いわゆる土木技師というのは七十数名おまして、それがちょうど私たち 50 代から 60 代というのがかなり多い状況で、特に水道の場合は、いわゆる水道の技術員の方がお見えになりますので、そういう方が、現在は全く採用しない状況の方がちょうどこういう年齢に差し掛かっているということで、この 20 ページの表としては非常に右のほうに赤い状態になっていると。これは実際の状況でございます。小牧市としては、今いう技術員の方は採用するというはこぞずっとやっていなくて、また、将来的にもやる方向にはありません。

ただ、技術職員のほうに関しましては、これは今、一生懸命採用のほうをできるように年 2 回、もしくは 3 回の採用試験をやっております、その中で技術職員を採用できるようなことはやっております。ただ、現実的に人数がそれ以上本当は欲しいんですが、今の 70 人台を何とか確保しながら今きていますので、辞めたからその補充がないかということでは決してありません。今、これも水道のほうはちょっと若い職員が少ないんですが、市の中ではまだほかの課のほうにはこういった若い職員、20 代の職員もそれなりに交代で、辞めた分だけ入ってきているみたいな感じで採用はしていますので、この傾向はこれからもずっと続けていくというのが小牧市としての職員採用の在り方かなと思っていますので、そういった意味で、何とか現状維持の中で職員のほうも採用してという、その中でそれぞれの道路、河川、水道、いろんな分野がありますので、そういう中でやっていっているのが現在の小牧市の採用の仕方になっていますので、まずはそういった状況だということをご説明させていただいています。

【萩原座長】

やはり、この現在の技術職員、特にこの 20 ページのところの 56 から 60 歳の 8 名の方、

退職された後、8名分の欠員ですよね。それを採用していかなければいけない。そこで、やはり何名が適正規模かというその業務量から検討するべきだという平山委員のご指摘、ごもっともだと思いますので、本来はそうしたシミュレーションを基にこれだけの人数を確保するべきだよということを書ければいいんですけどね。そういう点はまたご検討いただける範囲でご検討いただくということによろしいですかね。これはやるべきなんでしょうけど、人件費の問題とかいろいろなしがあるんでしょうけど。どうしても縦割りなんだろうかと、いろいろと統一的にビジョンとか経営戦略を挙げようと思っても、この小牧市の上下水道部でできる範囲って限りがあるのかなと。

【事務局 牧野部長】

はい。

【萩原座長】

わかりました。できる範囲のご検討をいただけるということで、今説明がありましたけど、平山委員、よろしかったでしょうか。

【平山委員】

まあ、ここにはそんなにいっぱい書けないですよね。

【事務局 牧野部長】

はい。書けないです。

【平山委員】

でも、そういういろんな事情、状況をやはり市民に対してコミュニケーションする努力は今後も絶対に続けていかないといけないと思います。

【事務局 牧野部長】

そうですね。そのためにもこういった20ページの資料を今回も載せさせていただいたと、言うところのことですね。材料として、ぜひともこういう状況だということをお分かっていただきたいと。

【廣野委員】

非常に経営的には単純なので、水道料金が財源だけであとの収入財源はないんですね、起債以外はね。起債は、例えば、やらなければ対象外だし、補助金も。本当に水道料金が今月何円入ったからそのお金で給料を払って仕事をしてもらおうというだけのことなんですよ。だから、やっぱりソフトよりもハードの部分が非常にお金が動いていくので、だか

ら基本的には水道料金を上げな駄目だという、当初から言っている財源の確保がまず最優先。それをやることによって、皆さんおっしゃるサービス業務ができると、必要なですよということを市民の人に訴えるという、分かっただけという、理解していただくための手段としては市の補助金をもっと出したらどうかという話が出てくるし、そういう部分があればいいんですけど。独立みたいな感じですのでね、水道経營業務というのは、あくまでも財源を表に全面に出していけばいいかなと。何々するためにお金が必要です。このお金がないとできませんという話ばかりでずっといった、じゃあ、最終的に行き着くところはなんだといったら、上げてもらえますかという値上げのお願いしか最後には来るんじゃないかなというね。そのためには我々も努力しますと、人をこれだけ確保して精一杯やりますのでと言ったと思うので、やっぱりその財源というものでいろんなことを進めていただければいいかなというのを思います。どうですか。

【酒井委員】

よろしいですか。14 ページに県内の水道料金の比較が載っておりますね。小牧市、県内最高、最低というような。非常に、これ、小牧市を見ると低いですよ。県内最低って、これ、ちなみにどこら辺なんでしょうか。県内最高とあってありますが、決して小牧は高くないと思うし、こういうことから、私たち女性からするとよそよりも安いんだよということを理解できれば、それはいろんな費用に使わなきゃいけないからもう少し値上げをしてもという感じで受け取るんですけど、私たちは。

【事務局 高木課長】

水道料金の価格のお話ですが、県内最低が 654 円となっておりますが、654 円は一宮市さんになります。その次が犬山市さんで 685 円という状況になっております。

【酒井委員】

要するに、地下水があるところなんですか。小牧もたくさん、30何%は地下水ですよ。自己水って言うのかな。そういうのがたくさんあるところが安いついていのかどうかかなと思って、ちょっと表を見させていただいたんですが、あとでお話出ると思うんですけど、この概要版を見せていただいて、非常に私でもわかるように作っていただいたなと思って読ましていただいたんですけど、こういうところにもそういうことをちょっと記載させていただくとかってなると多少は市民の方の意識も違うんじゃないかな。値上げをするにあたっての、どれだけの財源が必要だから、水道料金、小牧は安いですから多少はつてというような感じで受け取るんじゃないかなと思うんですけど、いかがなんでしょうね。役所的にはこういうきちんとした資料でないといけないんでしょうけど、私たちの感じからいくと、もう少し砕けた文章の書き方でもいいんじゃないかなと思うんですけども。

【事務局 伊藤課長】

最初のご質問で、犬山市と一宮市の個々の状況を詳しく、今、手元がないんですけども、全体的に言いますとやはり県水を受水して、たくさん受水しているところは水道料金が低い傾向ではございます。

もう一つ、概要版に水道料金が比較的小牧が安くて、値上げをしなければいけない旨を記載したらどうかというご意見をいただいたんですけども、今回はあくまでも値上げありきではないので。そのあたりを逆に市民の方が、「いきなり値上げするのか」と受け取られるといけないので、あえて書かなかったというところでご理解をいただければと思います。この先、具体的に水道料金を上げる審議に入っていった折には、必ず記載のほうをさせていただきたいと思います。

【酒井委員】

承知いたしました。

【萩原座長】

ちなみに県内最高はどちらの自治体ですか。

【事務局 高木課長】

平成30年3月31日時点でありますが、市としましては豊田市さんが1,728円。14ページに記載させていただいています県内最高の1,814円が海部南部企業団となっております。

【萩原座長】

酒井委員、よろしかったですか。

【酒井委員】

はい。ありがとうございます。

【萩原座長】

では、その他何かご意見、ご質問等ございますか。

【平山委員】

本当はこういう14ページであれば、20立米作るのにどれだけお金かかっているのというのは本当はあってもいいかもしれないですけどね。ちなみに、一応、この辺りで一番大きな名古屋市さんとかであれば、20立米の水を作るのに3,400円ぐらいかかっていて、20立米の水道料金は2,400円ぐらいなんです。一般市民はそういう形なんですけど、要は大口顧客とかがいるので一般市民の方はそれだけの値段でも何とか。先ほど、廣野委員が言わ

れたように独立採算で水道料金だけでも何とか事業をやっていると。やはり大口顧客がなくなると一気に大変に。

【萩原座長】

戦略的にですね、水を作るのにどれぐらいお金かかるのかというのは記載すると確かに良いと思いますけど、事務局どうですか。

【平山委員】

日水協でしたかね。水道統計で全国の水道事業体のそういうデータが全部見れますので。

【廣野委員】

酒井さんのさっきの話ですね、すいません。水道値上げ、シミュレーションによって出るように、いつ値上げせないかんのかって、まだいいって言われましたけど、このビジョンでは概ね分かるとるでしょ。大体、いつごろには値上げせんと駄目だって。駄目だって言っちゃいけないけど。

【事務局 伊藤課長】

今回のシミュレーションですと、令和7年に経営状況が悪くなりますので、そのときから検討に入っていっては遅いものですから。

【廣野委員】

7年で。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【廣野委員】

これはもうやらないかんですね。

【事務局 伊藤課長】

7年に向けてということで。

【廣野委員】

職員は3年ごとに変わられるでいいけど。

【事務局 伊藤課長】

そうございませんけれども。

【萩原座長】

でも、そうするとこちらの方を市民は見るってことになりますよね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【萩原座長】

概要版の1枚目の経営の状況というところで、「現状では」というただし書きで概ね安定した経営状況とっておいて、6年後には厳しいという状況になるわけですよね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【萩原座長】

でも、現状では安定。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【萩原座長】

ここから将来的に小牧市の水道は厳しいよという、大方の市民が7年後の経営は厳しいと理解できるのはどこでしょうか。要するに、将来的に水道料金の値上げがあるかもしれないということを推測できるような記述。

【事務局 伊藤課長】

裏面のやはり財政シミュレーションのところになるのではないのかなと。やはり、値上げありきの今回の計画ではないものですから少し表現は控えめなんですけど、ここの(3)の財政シミュレーションが。

【廣野委員】

危機管理をね、危機感をやっぱり持つていくためには10年というとなら3年、逆からね。

【事務局 伊藤課長】

そのバランスですね。あまり危機感をあおりすぎてもいけませんけれども、「じゃあ、大

丈夫だ」と安心されてもいけないのかなと思います。

【廣野委員】

このへんは本当に、先ほども言っていますように、財源確保のためには予備費を使えとか、何とかかんとかみんな言いますわ。市があるもんだから、市は一つだから横流しでいいんじゃないかっていってね、財政の中で。だから、そういうことを言いますけども、実際に、本当に財源が水道料金の収入からいくなら、こうですよ。だから、令和7年に値上げしとかなないとパンクしますよという、先々ね。

【北出委員】

これを見せていただくにおいては、民間委託もせず、小牧市が全部自治体として水道事業を継続していただけていけるなっていう印象を私は持ちました。ただ、後ろにちょこっとだけ書いてありましたけども、何か市民に対してアピールする部分が少し、もうちょっとあってもいいのかなという気がしました。これ、今、令和2年にもうじきなりますでしょ。それで7年にだから。これ、何年かに1回か出されるわけでしょ、こういう物を。

【廣野委員】

そうではないよね。

【北出委員】

このビジョンを。

【事務局 牧野部長】

見直しとしては5年。

【北出委員】

5年に1度ずつ出されると。

【事務局 牧野部長】

はい。

【北出委員】

そうしますと、5年後には。

【事務局 牧野部長】

今、54 ページに進捗管理ということで、この実現方策に対するどれだけの評価というこ

とを今後必要な時期に、毎年、決算等が出ますので、その中で各指標がどういう数字になっているかということは当然皆さまにお知らせしてくと。今でも業務指標等、先ほど平山委員が言われました、1立米つくるのに幾らかかるかとか、幾らいただいているという収入も毎年出させてはいただいているんですけど、そういうものをできるだけわかりやすく、これからは市民の方にお知らせする工夫が大事かなと思います。

今回、このビジョンの経営戦略の中ではこういった形でまず、言い方はちょっと語弊があるかもしれないけど、まずは初めはこのように進めていって、結局、毎年毎年こういうことをやっていくことによってその危機感というか、実際、我々もそういうことが確認できます。それをいかに市民の方にお伝えしていくかということ積み重ねながら、あるところから本当にそういった業務、今言った審議会というのは本当に最後の話ですから、その前に当然いろんなステップがありますので、そういう中で、今言われるようなことは現実論としてははっきりお示ししないといけない状況で、きっちり、今、ここに書いてあることをちゃんとやっていけば、必ずそういうふうになりますので、そういったように小牧市のほうも考えておりますので、現段階においてはこの程度の表現にということでお話しさせていただきました。

【佐橋委員】

すみません。もっと早く聞かないかんかったです。これ、下水道費用って入っています？この計算の中に。

【事務局 伊藤課長】

水道事業と下水道事業は全く別でございますのでここには下水道は入っておりません。

【佐橋委員】

何ですか。料金と一緒に徴収されるのに。近所だと下水道が増えて、倍取られるので大変だ、大変だっていう市民が多いですけども。また、下水道は下水道でこういう会合があるんですか。

【事務局 伊藤課長】

下水道は、ビジョン的なものを今、策定をしているわけではございません。

【佐橋委員】

おたくのほうだけやられるわけじゃないの？

【事務局 伊藤課長】

私どもです。

【佐橋委員】

何で一緒にしないんですか。うちの場所ですと工事がね、下水道工事がだいぶ終わるとるんですわ。それで、今、こういう地区に関して役所の職員の方が回られて普及率ですわ、下水道を直に使っていただくように回ってみえるんですけども、そういう費用が、工事やったところが100%皆さん利用していただければ費用も入りますよね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【佐橋委員】

水道料金アップしますわね。そういう面を一緒に考えて全然やられないの？いまさらそんなことを言っとってはいかんけど。

【事務局 伊藤課長】

下水道は下水道で工事費がかかっているその費用をいただいております。水道は水道の方で工事して費用をいただいておりますので、下水道の料金が入ったからといって水道に反映するわけにはいかないんですけども、計画としましては、下水道の方も経営戦略というのを今、作成をしております。

【佐橋委員】

別であるわけですか。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【佐橋委員】

あるんですね。

【事務局 伊藤課長】

はい。

【佐橋委員】

まだ動いとらんでしょ。

【事務局 伊藤課長】

まだ、今、策定中です。

【佐橋委員】

こういう場はないでしょ。

【事務局 伊藤課長】

はい。こういう場は設けておりません。

【佐橋委員】

ないんですか。

【事務局 伊藤課長】

はい。今年度から下水道のほうは企業会計になったものですから少し取り組みのほうが遅れておりますが。

【佐橋委員】

すいません。また早く知ればよかった。

【事務局 伊藤課長】

すみません。

【北出委員】

上下水道って言いますもんね。

【萩原座長】

1回目か、2回目か、下水道についてはこちらでは、一応、検討しないと事務局からもご発言がありました。その点はまた別途、たぶん、検討してくださるのかな。検討の場があるということですよ。

【平山委員】

でも、市民の方ってそういうの細かいですもんね。

【佐橋委員】

そんなこと分かりませんよ。一緒ですよ。下水道費用を払う分には、今の時点から倍以上払わないかんで大変困ってみえる方が多いですよ。うちのほうでも皆さんそういう苦情があるんです。苦情と言ったらいかんですけど、「上がったな」「大変だ」という話が。

【北出委員】

みんな、頭に「？」って思いながら払っているんですか。

【佐橋委員】

そうですね。

【廣野委員】

でも、これは本当にそうですね。財政シミュレーションでもそうですが、こういう状況の中で、じゃあ、どういう方向で行くんだという方向性だけはやっぱり書いていたただいたほうが、企業債、起債で実施して借金すればいいがねとなっちゃうんですよ、そのときが来たら。企業債を発行して借金すればいいんじゃないのという。あくまでも我々が考えておるような民間事業じゃないよということがはっきりとこう、民間事業だよということも言えないし、市だから全体で考えてくれというふうに必ずなると思うんですよね。これだけ捉えて話をしても、税金払っとるんだから水道料金ばかり言わずにもっとほかのことも考えてよという、それは、僕は現実だと思うんでね、やっぱり、マイナスだったら借金しなさいよ小牧市という、そういう話になってくるんで、これは単体で話しするところという話ばかりになりますけど、働き方改革だとかいろいろ、授業料免除、今度の国の小学生の授業料免除、1人1台パソコン、あれだけで20億近く、小牧市、たぶん手を挙げてしゃべるのは国で、地方財政の中でやりなさいということなので、決して小牧もこれからはマイナス成長になってくるという危機感はあると思うんですよね。旗揚げはやっとならけどお金を使うのは全部、特に、今は裕福だといわれていますけども。そういう意味では、方向性としては非常によく分かる、概要版ではね。でも、先ほどから言っように、赤字になりますよといって、ショートになりますよといってもびんとこない。この状態では値上げできないと思う。パブリックコメントになって出てくると思いますが。だから、とにかくそういう危機感を持っておいてもらうというのも必要なという気もします。あくまで概要ですから、方向性がはっきり分かっていますよということで一言書いておいていただくといいかなと思って、先ほど、部長さんがおっしゃった53ページの中から1行でも文言を書いてもらえると。財政についての検討状況関係のものだとか、料金関係だとか、このへんのことを一つ書いてもらって。参考資料とかの感じでね。これ、読むと思うんですよ。書いてあれば読むと思うんですよね。たまたま両方もらっているから、こっち何ページ見てって分かりやすく。これだけもらってこれの概要版であれば、この52ページ、53ページをぜひともどこか隙間に書いていただきたいなど。財政シミュレーションの下ぐらいにどうですかね。そうなんだという現状把握と先行き見通しの心構えです。

【平山委員】

それに関すると、40 ページの一番下の図ですよね。財源がずっと減って行って、毎年順調に減って行って、2028 年に 0 未満になるという。すごく素人的な質問なんですけど、こちらの議論にももう入ってしまっているんですが、「現状では概ね安定した経営状況といえます」って言うてはいるんですけど、40 ページのこの下の図で、持っている内部留保というか財源が毎年どんどん減って行って、何年々後にはマイナスになるというのが分かってるのを安定した経営状況と言うのですかね。それは安定した経営状況なんですか。

【廣野委員】

3 年間は安定です。人事異動があるまでは安定です。

【平山委員】

現状、概ね安定であればそのままやってもらったらいんじゃないってならないでしょうかねという。

【萩原座長】

意見をちょっと言わせてもらおうと、この概要版のところというのは確かにこの図表とか全部踏まえてこちらに落とし入れていると思うんですけど、この経営の状況に関しては、2019 年度、今、まさに今は何とかなるけど、でも、これから先、厳しいよと、この概要版の（3）のところでそういう見通しがあるよということは入れてもいいかもしれませんよね、正直に。だって、見れば分かっちゃいますもんね。だからこそ、その裏面のところのこの取り組みではこのような、もしかしたら料金値上げになるかもねという、そのところを含み置けばいいのかなとは思いますが。

それともう 1 点、佐橋委員がおっしゃったように、下水道は今ここに入れてないよというのはこの中に記載はありますか。市民の多くの方はこれは関連性があると、やはり料金を払っている市民からするとそのように理解してしまうかもしれません。そこがまずこの中にあるかないかということと、もしないのであれば、そこの断り書きだけでもあればいいのかなと。でも、断り書きも入れられないんだったら入れられないところをご説明いただければいいのかなと今思ったんですけど。

【廣野委員】

下水道の水は違うところから出てくるんですかね。

【佐橋委員】

流す場所が違うんだから。

【廣野委員】

そうですか。

【北出委員】

料金が、水道料金が上がりますと下水道料金も上がりますよね、絶対に。

【佐橋委員】

倍以上になります。

【酒井委員】

倍以上になるんですか。ないから分からないけど。

【佐橋委員】

今の倍以上。

【酒井委員】

だって、うち、下水道ないです。

【佐橋委員】

だから、普及しないの。

【酒井委員】

普及しないね。

【廣野委員】

じゃあ、半々使うと5割アップなんだ。水道料金。水道、足す、下水道、割る2で。

【佐橋委員】

いやいや。5割アップですわね、やっぱり。倍になる。

【廣野委員】

下水道、プラス、水道、割る2でどんだけの数字が出るか。その立米あたり。

【佐橋委員】

そういうところは普及してくれば結構カバーできるんです。本当に。入れてくれりゃいいんだわ。

【萩原座長】

事細かなシミュレーションは今現在ではできないでしょうけど、その断りというかその部分だけでも、例えば1行。1行じゃ本当はいけないのかもしれませんが、この水道ビジョンそのものはあくまでも現在上水道のみを扱うものであって、今、小牧市として下水道について、一言もないというのは、もしかしたら市民にしてみたら納得がいかないかもしれないのかなと思います。

【廣野委員】

何らかのアンサーが必要でしょうね。誰から見たって出てくるかもしれん、パブリックで。下水道はどうなっとんの。

【佐橋委員】

僕らみたいな単純な考えで。これ、上水道にすればいい。上水道事業に、初めから。

【事務局 牧野部長】

まず、我々の中では水道と下水道というのは全く別物です。行政的には全く別物で、それぞれが費用を算出して必要な料金・使用料をいただいている仕組みですのでこれは全く別物です。ただ、お金をいただくときに水道メーターで何トン使ったというものに対して、下水は下水で別にいただいているということで全く会計は別ですから、基本的にはこういうところで既に区別されているものですから、そういった記載があるような自治体は恐らくないと思います。ただ、いま現実的に一緒じゃないかと、我々も一緒ですねというようなことで何か工夫をして、本文の中に入れるということはなかなかちょっとないかと思うんですが、我々がそういうものをお出しするときに、当然、ホームページならホームページには追記というのは可能ですので、どこかのページの中で最初のところでそういうことをうたうことは可能ですので、そのような工夫の中で下水道との区別はしてあるよということが分かるような表記にさせていただくのならできるし、皆さん、そういったご意見方が多いですから必要だと思いますので、そんな工夫をしてパブリックコメント以降、それから、今後、事業の中でそういう形でやっていきたいなと思います。

【萩原座長】

市民の方に分かってもらえるようなそうした工夫を、取り組みをしていってもらおうということですね。そうやってしっかりしていただくということでお願いいたします。

そのほか、何かご意見等ございますか。

【平山委員】

いいですか。先ほどの話に関連してですけど、私もいろいろ事情を知っているのだけれなんですけど、でも、やはり市民の人って水道が厚生労働省でとか、例えば、水源は国土交通省でとか、木曾川は中部地整とか、全然知らないですよ。そういった中で、小牧市上下水道部として取り組んでいるというのは、いつかは一体としてやっているんだというのは将来的には考えないといけないのかなとは思いますが。もちろん財源も違いますし、所管も下水道は国交省ですし、水道は厚生労働省ですし、補助金の付き方等も違いますし、いろんなことも違うということで。でも、行政の中のビジョンとか経営戦略のあり方とか、どういう方向を目指すんだというのは、やはり上下でゆくゆくは考えざるを得ない時代は来るだろうなどは、そのへんの覚悟は少しずつ持っていないといけないのかなと。そういったことも踏まえての人材育成もあるのかなと思いました。

すごく私の分野で申し訳ないんですけども、やはり災害時に水道直りました、下水道復旧していません、じゃあ、水道をジャバジャバ使っているんですけどどうなの？やはり上水道も下水道も直って初めてその地域が次の復旧、復興への一歩が踏み出せるということがありますので、せつかく上下水道部という一つの組織ですので、そこは少し議論はやっていかないといけないのかなとは思いました。

もう1点は、これは本当にコメントと思って聞いてください。特に今後必要になるかもしれないし、先ほど、委員の方が言われていましたが、14ページの水道料金の話なんですけど、例えば、20立米って、大体4人の1世帯が月に使う平均の量ぐらいかと思いますが、ガスとか電気とか通信とか携帯代とか、ひと月にどのくらい、もちろん下水道も入れてどれだけ生活のライフライン、あるいはインフラに料金ってかかっているのかというのを横並びにしてみて、水道ってこんなに安いよというのはあるのかもしれない。ちょっとそういったことも次の検討では要るのかもしれない。そうすると、もしかすると小牧市民の方々にご協力いただいて、ひと月どのくらいのインフラに対してお金を払っていますかみたいなアンケート調査をするといったことも必要なのかもしれない。

【萩原座長】

今の平山委員のご発言に対してよろしくお願いします。

【事務局 牧野部長】

では、2点なのかなと思いますが、まず、上水道、下水道、せつかく上下水道部だからというようなくだりですが、まさしくそういう中で小牧市は平成30年4月1日から、ほとんどの自治体は上下水道部なんですけど、中は実際には水道課と下水道課と分かれているところがほとんどです。そういった形の中で、それぞれ水道課の課長さんは水道のことを考える、下水道課の課長さんは下水道のことを考えているだけで、部次長は両方を考えるみたいな組織になっているんですけど、それよりも、今言った人材育成もそうですし、トータルで考えないといけないということの中で小牧市は30年4月1日から現在の上下水道

部の中で上下水道経営課、業務課、施設課ということで全ての課長が両方の事業もという形で体制を変えましたので、そういう意識は我々としては当然、そういう組織まで変えてそういう考え方でやっておりますので、まず、この場でPRのほうをさせていただきたいと思います。決して片方をないがしろにしているわけでは、両方を立てていかないといけませんので。

そして、先ほど言われたように水道ができれば下水道は当然流れないと、これはちょうど西日本の災害のときにそういうことが記事上にマスコミとかでも出たんですけど、水道を直すのに一生懸命やっておったら、あるとき、「あれ、下水道！」ということで非常に問題になったということもレポートなどで出ておまして、そういうことは当然ないように。下水道が流せなければ、仮に水道が復旧しておっても、あくまでも応急給水をやっているといけないう状況というのは、そういう意味では、我々は頭は一つですから同時に考えてやっていきますのでそういう齟齬がまずないような状態になると思います。

先ほど経営課長のほうが若干申し上げましたが、今、水道のほうはこういった形で懇話会をという形で、水道ビジョンを作るということがきっかけになりまして、この中で経営戦略もということの中で先行した形でより深いところまで、実際に料金改定とかはまた全然レベルが違うんですけど、まず、こういった形で、掘り下げた形で今回作らせていただいて今日あるわけですけど、下水のほうは本当にまだこの4月1日から企業会計になってやっという水道のような資料、こういったデータもやっというところから取れるような状況になってきましたので、そういうものを踏まえて、まさしくこれから下水道のほうも情報を出させていただくという形の中で、当然、下水道の使用料のほうも、これは正直に申し上げますが下水のほうももっと苦しいですから、一般財源も相当投入して事業をやっていますので、これからどんだんうちのほうとしてはPRをさせていただいて、そういう中でまた市民の方の判断をいただきながら、一緒です、安全、持続、強靱というのは同じライフラインですから結局目標は一緒です。ビジョンも一緒ですから、そういう形で、今後、またこれからしっかり取り組んでいきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

もう1点です。ガス、水道、電気とうたったらどうだと、今、平山委員が言われていましたように、そういったPRの中でとか、次の段階で本当に料金改定、使用料改定というのを前提の中でやらせていただく上の一つ材料としてうちの方はできるだけ有利な材料だと思いますので結構大きい、携帯なんかもっと高いですよ。そんな中に比べれば、毎日絶対必要なものですからすごく安いと。確かにそういう価値観で言えば、相当、水道下水というのは安いと思いますので、そんな形でのPRもできたらなとお聞きしました。

【萩原座長】

よろしかったですか。

【平山委員】

とにかく、3、4のコメント等でいくと、この中に書き込むのか、どこかまたホームページ等で上水道、下水道でこういう取り組みをやっている全体のそういう大きなところがわかるような情報発信をやはりしないといけないっていう、たぶん、そういうコメントだと思いますので、ぜひ、先ほど部長が言われたようなことをどこかに、やはりホームページかどこかにする必要はあるのかなとは思いますが。

【北出委員】

下水道のほうがもっと厳しいっていうことを今初めてお聞きしましたけど。知りませんもんね、何も。

【佐橋委員】

だけど、あれだけ負担金を集めてみえて何でそんなに厳しいの。田んぼまで集めてみえるよ。1平米。

【北出委員】

平米幾らで。

【佐橋委員】

500円ですけどね。1反ありますと……、3.3を500円か。

【廣野委員】

田んぼの中にはトイレないわな。

【事務局 牧野部長】

1平米500円です。

【佐橋委員】

500円でしょ。それで、30万取られる。

【事務局 牧野部長】

50万です。

【佐橋委員】

50万でしょ。大変ですよ、本当に。百姓が何でそんなものまで払わなきゃいかん。まあ、ここで言っても意味がない。やめておきます。

【北出委員】

高くなるって言っていたね。

【佐橋委員】

お百姓さんは困ってみえますよ。

【平山委員】

でも、これは日本のインフラ整備の根本的な問題の部分もあると思うんです。要は、水道も昔、高度成長期はイケイケドンドンでどんどん整備しなさいと。普及率を上げるために国が補助金出して、で、整備が終わった途端、維持管理になると補助金出しません、皆さんの料金収入だけでやってください。

下水道も同じ形なんです。下水道普及率をどんどん上げなさいというので国交省からどんどん補助金に来て、でも、それが一段落してくると、あとは自分たちでやりなさいってなっているの、それは苦しくなるのは当たり前なんです。でも、そんなことを市民の皆さんは知らないじゃないですか。

【事務局 伊藤課長】

新設のときには補助金いただけるんですけど、更新のときには下水道は補助金は今もらえませんので、一生懸命国にお願いをしているところです。

【平山委員】

水道もそうでした。昔は。普及率を上げるときは。

【廣野委員】

下水道に流しちゃいかんね。河川放流。合併槽で。

【佐橋委員】

本当だよ。

【萩原座長】

本当に市民の方に分かるように情報発信、情報提供をしっかりとしていただくということを最後をお願い申し上げます。そのほか何かご意見、感想等ございますか。よろしいでしょうか。

皆さま方にいろいろご意見いただきましたけれども、このほかご意見もないようですので、次第2、前回の意見及び意見等に対する考え方についてはここまでにしたいと思えます。皆さま方からいただいた意見を踏まえまして、修正等の結果につきまして事務局の

方で対応していくと思うんですけども、その結果につきましては大変恐縮ですけども事務局と私の方に一任させていただければと思います。

【委員一同】

はい。お願いします。

【萩原座長】

ありがとうございます。

それでは、次第の3に移ります。次第3のパブリックコメントについて事務局からの説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

(パブリックコメントについての説明)

【萩原座長】

事務局の説明が終わりました。ただ今の説明につきましてご意見、ご質問などございましたらご発言いただければと思いますが。

【佐橋委員】

こういうのを掲示されて何件ぐらい質問がありますか。

【事務局 伊藤課長】

計画にもよりますけれども、1件もないというのあれば、例えば、図書館みたいに関心が高いものには何十件、本当に何百件ぐらいあるときもございます。

【佐橋委員】

それで、1件1件おたくたち真意になって説明してみえるの？

【事務局 伊藤課長】

いただきましたご意見につきましては、例えば、要件に達していないもの、住所が書いてなかったり、全然関係ないことを除きまして整理をさせていただきまして、それに対する市の考え方というのをまず作りまして、ただ、反映するかどうかはまた別の話でございますが、いただいた意見に対しての考え方は全て公表をさせていただきたいと思っております。

【萩原座長】

そのほかに何かございますか。よろしいですか。それではパブリックコメントにつきましては事務局の説明のとおり進めていきたいと思えます。

続きまして、次第4 その他について事務局の説明をお願いいたします。

【事務局 伊藤課長】

今後の予定についてでございます。次回の会議でございますが、約1カ月間のパブリックコメントを終えまして、少し時間が空きますけれども、来年3月23日月曜日午後2時から、第6回の会議を開催させていただき予定でございます。

内容につきましては、パブリックコメントの結果と計画の最終案を報告させていただき予定でございます。また、今日以降お気づきの点等がございましたら事務局までご連絡いただければと思っております。よろしくをお願いいたします。

【萩原座長】

ありがとうございました。ただ今のご説明につきましてご質問などありますか。

【一同】

ありません。

【萩原座長】

特に無いようですので、以上をもちまして本日予定された議事を終了いたします。皆さま方には、議事進行にご協力感謝申し上げまして座長の座を降りたいと思えます。ありがとうございました。

【事務局 梶田次長】

本日の長時間にわたりありがとうございました。これをもちまして第5回小牧市上下水道事業経営懇話会を終了させていただきます。

先ほどお話もありましたが年末を控えて、大変交通量も多くなっております。また、今週から小中学校等が冬休みにも入っております。横断歩道の歩行者優先の徹底やヘッドライトの早めの点灯など、安全運転でお気を付けてお帰りいただきたいと思えます。

本日はありがとうございました。